

世界の大学をめざせ！

アメリカのスーパーエリート校入門

石松久幸 監修 / 三竹大吉 著

世界の大学をめざせ！

アメリカのスーパーエリート校入門
石松久幸 監修 / 三竹大吉 著

松柏社



9784775402351



1920037015008

ISBN978-4-7754-0235-1

C0037 ¥1,500E

定価(本体1,500円+税)

National University of Singapore

University of Melbourne

University of Sydney

University of California, Berkeley

Stanford University

University of California, Los Angeles

Cornell University

Yale University

Princeton University

Duke University

Lund University

Lisbon University

松柏社

もっと広い世界へ—留学のすすめ

〔ミシガン大学図書館〕横田カーター啓子

1. 在学している大学の交換留学制度を利用する

日本の多くの大学はグローバル化を進めているので、留学提携校を持っています。あなたの在学校の留学制度をフル活用しましょう。もしあなたが高校生で留学に興味があるのなら、大学の海外提携校も志望校選びの考慮に入れましょう。提携制度の大きな利点はなんといっても留学経費にあります。北米の大学に留学する場合、有名な州立大学や私立大学は、年間授業料が500万円、寮費など諸経費を合わせると年間700万円はかかります。ですから、在学校の授業料や奨学金の援助で、提携校で学べる留学制度は経済的で現実的です。提携大学のある環境や留学条件などを自分の目的や希望に合わせて考えましょう。もしTOEFLE、経費予算等が留学希望先の条件に合わない時もあきらめず対策を立てて努力してみましょう。米国の大学は「受験勉強並みの集中力が求められる修行」と言う日本人学生には、留学生だった私も同感です。自分の心が躍るほど行きたい所でこそ、毎日ががんばれ楽しめます。

交換留学制度には単位互換性があり、就職活動や卒業に不利にならないように日本の大学は考えています。早くから、

留学担当の職員に遠慮せずに様々な質問をぶつけ相談されることを勧めます。

また、年齢は関係ありません。学部時代に留学できなくても、専門研究の奨学金に応募する、研究と生活費が保証されるポストドクター研究者として留学する、あるいは企業派遣で留学することもあるでしょう。「自分は何をしたいのか」、そのための手段として留学があります。丁寧に自分の心の声に耳を傾けてみましょう。言葉にできない思いも大切に育てていけば、必ずそれにあつた最善の道が開けていくことでしょう。

65歳を過ぎてから、ミシガン大学のシニア授業料割引制度を利用して、格安の授業料で社会福祉大学院に留学し修士号を取得した日本女性がいます。情報を調べ上げシニア割引を利用するしたたかさ。夢をあきらめず模索する中で、情報収集スキルも磨かれ、意志も忍耐力も強められ、実は「生きる技や力」が訓練されているのです。もし留学できなくても在學校に来る留学生と交流するなど異文化体験できる場があります。自分の大切な人生を「最善の時に最善のことが準備される」ことを信じ感謝して生きましょう。夢は捨てないで、意志のある所に道は必ず開けます。

2. 留学中に就活する

多くの学生が留学をしない理由に就職活動と時期が合わないのが敬遠するという事情があります。しかし、最も大切なのは就職活動なのでしょうか、それとも就職なのでしょうか？日本の企業はどこも、生き残るためにグローバルな経済活動に貢献してくれる人間を必要としています。その一方で、学生側では、留学すると就職活動には不利になる、しかし留学経験は就職に有利になるというおかしな状況になっています。留学をめぐり就活と就職に挟まれた学生はどうすればいいのでしょうか。だいじょうぶ、仕事を通して自分が成長できる会社に出会う、それは日本国内にいらなくても留学中にでもできることなのです。

技術の進歩と社会の変化は速いので、よく言われる「今すぐ役立つ人材」はすぐ役に立たなくなります。優秀な企業は「人材」よりも「人に信頼され成長する人間」を探しています。この社会、特にビジネス活動には現状維持はありえません。激しい変化に流されずに生き残るためには、歴史の中と現在の世界に存在する多様性を理解し、自然・生態系も含んだ様々な要因によって世界全体がどんなダイナミズムで動き

変化しているのか理解し予見する。全体との関係を捉えながら、個々の分野で新しい価値を考え創り出すことができる。専門技術に加えて、歴史、文化、文学、宗教、政治等の知識と教養、人間に対して愛情があれば多様な人と交わることができ信頼され、人間はどこでも生きていけます。

これまで同質志向だった日本の企業は、異文化で生活する留学生・海外在の日本人は「異質なもの」に日々晒されながら、自分と日本を外から客観的に考えることができ、多様性に寛容で、国際的に人と交流できる力をつけているだろうと期待しています。しかし、皮肉なことに、求人は増える一方で留学生が減少している。つまりあなたの「希少価値」は増しているのです。

大学のリクルート課に登録して面接する会社もありますが、日本企業の多くはリクルート会社の主催する会社説明と面接をする「キャリアフォーラム」に参加しています。このキャリアフォーラムを利用して北米留学中にも就活、内定取得は可能です。こういったリクルートサービスを利用して、銀行、グローバルコンサルティング会社、米国証券会社・投資銀行の日本本社にスムーズに就職した日本人学生の例をお話ししましょう。皆さん大学図書館で私の仕事をアルバイト

で手伝ってくれた学生たちです。

A君は在学校の留学提携を利用して米国の大学院に留学。私の元で図書館の日本語コレクションの注文入力のアルバイトをしてくれました。二年間の留学でしたので、彼は学内就労時に取得したソーシャルセキュリティ番号（銀行口座、保険、就職や運転免許証など生活のあらゆる面で必要な「マイナンバー」）があったおかげで、夏期休暇を利用してアメリカの企業でインターンシップを経験することができました。これが邦銀での就職に役立ちました。このインターンシップは有給だったのですが、外国人学生はキャンパス外では報酬を伴う労働は法的に禁止されているので、この学生は報酬をそのままこの企業に寄付、北米で開催されたキャリアフォーラムで一度に日本の三銀行から内定を受けました。銀行の国内研修もビジネスクラスで日本にご招待。仕事始めも銀行側は初めから米国大学の6月卒業を理解していたので、この学生は無事に修士号を取得した後、卒業式から就業開始までの期間を利用してヨーロッパ経由で帰国しました。

Bさんは米国に家族と永住する日本人学部生でした。微生

物学専攻でしたがITにとっても強く、日本で働きたいという希望が強かったので日本人学生対象のキャリアフォーラムに参加。ライバル同士の米国証券会社・投資銀行両方から内定をもらい、一社にIT担当者として東京で就職しました。

C君は日本の大学卒業後、私費でPublic Administrationの大学院に留学。この人も図書館で仕事をする事でソーシャルセキュリティ番号を取得して米国でインターンをする事ができ、日本でもインターンをした後、キャリアフォーラムで面接した米国コンサルティング会社の東京本社に就職しました。

D君は日本の大学院を休学し私費留学。消費行動研究に興味があったものの、ビジネススクールの授業料は年間650万円、一方で人間環境工学を勉強できる工学部大学院は187万円。そこで工学部に留学し人間工学とビジネススクールのマーケティングの授業などを取り、なんとかやっていけると自信を得てから日本の大学院を中退。納得のいく企業に出会うまで米国だけでなく日本でも開かれているキャリアフォーラムにも参加して、D君も米国コンサルティング会社の日本

本社に就職しました。

これらの学生たちに共通しているのは、情報収集力と計画性、アルバイトやインターンで実務を積む行動力。日本での就活と同じですね。留学中に北米各地と日本で開催されるキャリアフォーラムを計画的に利用して、留学を就職に有利に結び付けています。

3. 米国でのインターンシップには ソーシャルセキュリティー (social security) 番号が必要

米国のキャンパス内での仕事は留学生も就業可能です。フルタイムにならない週に19.5時間まで大学構内でのみ法的に働けますが、授業で多忙なので週に10時間程度です。仕事は大学のホームページにあるEmploymentのリストを検索し応募します。しかし、実際には人間同士の関係は大切に、もし自分の興味のある仕事を見つけたら、その場に行ってどんな仕事なのか担当者に話をすることが肝心です。積極的に「仕事はないか」と聞きにくる学生もいます。アルバイトの雇用なので、仕事がなければ連絡先を聞いておきますし、仕事があれば、その場ですぐに面接した後で書類を提出して

もらい雇用することもあります。

一般的なアルバイトは図書館の簡単な作業。時給は10ドル程度。貸出業務、図書の配架、日本語図書を購入する大学図書館では日本語のできる学生は貴重なアシスタントなので日本担当司書に連絡しましょう。日本語クラスの補佐の仕事に学生を雇う大学もあります。キャンパスの仕事は多くの利点がありお薦めです。収入はお茶代くらいですがいい息抜きになります。学生以外の、出身国も、世代も違う様々な性格の職員と仕事をする事で人間関係スキルも磨け、実務の経験を積むことができます。あなたの留学生活にも、人間性にもより膨らみが加えられることでしょう。

履歴書に「実務経験」を記載できること、自分の仕事ぶりや人間性を知ってくれている職場の人を持つことも大切です。応募先からの問い合わせに答えてもらえたり、推薦状を書いてもらえる職場の上司がいることはインターンシップにも就職にも有利です。

さらに、外国人学生にとって何よりも有難いのはソーシャルセキュリティー番号が取得できることです。この番号は米国でのインターンシップ応募や就職の際には既得していることが必要で会社はサポートしてくれません。しかし、留学生

のキャンパス就労では大学がサポートしてくれ、取得することができます。この番号は米国内での生活では無ければ困るといっていくくらいに必要です。さらに、米国を離れても一生持ち続けることができますので、いつかまた米国で生活することになった時にもすぐに役立ちます。上手に時間管理をしてキャンパスで働いてみましょう。

キャリアフォーラム

<http://www.careerforum.net/info/aboutCFN/jsk1.asp?lang=J>

4. 見えないものを感じ見る力

アップル、グーグル、マイクロソフト、フェイスブックなど収益を上げるだけでなく、世界的な社会変化を創り出す企業では、意図的に多種多様な言語と文化背景の人達がチームを組んで、お互いの違いや個性を尊重しぶつかり合いながら「世界中に通じる商品」を開発しています。専門知識に加えて異種混合チームを成功させるのは、察する、思いやる、想像する、「見えないものを感じ見る力」。それらの総合知としての創造性です。また、笑い、喜び、悲しみ、怒り、分かち

合う、困っている人を助ける、そんな普遍的な人間性が「共通言語」として人々をつないでいます。

ところで、米国の多くの学部では、入学時に一年間の寮生活が義務付けられています。一つのユニットの中に共通のリビングを囲む個室があり、異なる専攻の学生と一緒に住んでいます。どの学生にとっても大学生活は自分の常識と習慣とは違う「未知との遭遇」のカルチャーショックに始まり、みんな「未知に挑戦」し、新たに「共に生きる」ことを学びます。また、大学は好きなことを共有できる人と出会い仲間になる場でもあります。アニメ、ゲーム、映画、合唱クラブ、日本人学生会もイベント企画したり楽しいこと満載で、一生を通じての友人ができることでしょう。

共感する、感動する時に心の窓は開きます。共通する知識があればあるほど、繋がれる人の輪は広がり楽しくなります。専門技術に加え、大学で学べる文学、芸術、歴史等の人文系科目はあなたの心を自由に羽搏かせ人生を豊かにしてくれることでしょう。

行動するあなたが未来を拓きます。GOOD LUCK!